

グローバリゼーション

グローバリゼーションは、“buzz word”である。私達は現在いたるところでこの言葉を聞く。このグローバリゼーションは常時アメリカと関係している。ヨーロッパでは、グローバリゼーションは、アメリカ化することであるとも思われている。

なぜ、このグローバリゼーションがアメリカと関係し、アメリカ化現象となるのだろうか。アメリカは、外国人に対して、アンビバレント、つまり、矛盾した感情を持っている。かつて、アメリカは太平洋と大西洋に囲まれて位置し、他の外国との関係から孤立していたことに満足していた。現在、アメリカは世界最大の輸出国であり、輸入国であり、そして海外投資国である。しかし、海外企業の投資額のシェアは低いという点では今だアメリカは世界から孤立しているともいえる。

典型的なアメリカ人の考え方として、外国人に対してある多少悪い偏見を持っている。「我々の祖先がきた国を知ることは、なぜ、彼らがその国を離れたがったのかを知るのに良いことだ。」と言った老人の言葉にもそれが現れている。そして、アメリカ人は一般的に外国語を話さない。

経済大国になり、政治的に強い権力を持っていると、海外で起きた事件を無視することはできなくなる。そして、世界からの批評を受けるものであるが、アメリカでの情報技術は、モノ、ヒト、資産をモバイル化させ、これらのものはより早く、世界中にそれらを移動させることができるようになった。そのために、アメリカ企業やアメリカ人は世界により関心を持つようになった。このグローバル経済に必要な要素は7つ挙げられる。インターネットアクセス、財産・知的所有権、自由な発言や交流、グローバル経済に適応できる政府、十分に教育された人材、規則を基盤とした政治、新しいことを行い易い環境がそれである。アメリカはこのすべてを満たしている。グローバリゼーションを革新や通信技術ということで考えた場合、アメリカは国際化しているということでは先駆的であり積極的である。たとえば、アメリカ人が外国語を習わなくても、外国の歴史や文化を知らなくても、情報の移動、販売能力、マーケティング能力には長け、例えば、映画や娯楽のように外国の人々が欲しがるものを供給することができるのである。また、アメリカの持つ、際立った特徴として、「選択」ということがある。アメリカ人にとって選択するということとはとても大切な要素である。

アメリカ人は日本人のように貯蓄率は高くないが、金融市場の流動性は高い。加えて、アメリカ人のほかの国民性と違うことは「平等」に対する観念である。他の国の人々は「平等」を「結果の平等」と見るが、アメリカ人の「平等」というものは、「機会の平等」である。アメリカでは、極めて消費者志向な国であるが、1950年代は国際競争にはさらされていない。そして、1970年代までは商品の質も改善されていなかった。国際競争は、企業を刷新的にし、向上させていった。グローバリゼーションは、国際競争を生み、企業はより努力をしていかなければならなくさせる。よって、なぜ、アメリカがグローバリゼー

ションを好むかということは、つまり自らを国際競争にさらし、改善していかなければならない状況に置こうとするからである。アメリカにとって競争は一種の文化なのである。そして、アメリカ政府もグローバリゼーションと国際競争を助長している。国際的な平和を保つためには民主主義国家との貿易は重要だということも考えている。

1955年時に一番裕福だった国はフィリピンであった。しかし、現在、日本や香港、台湾が代表的であるが、それらの国々はこの50年で急成長をしたのである。アメリカもそうである。そしてそれを何年もの間、保っている。これらの国々で共通することは、貿易を基盤としながら市場を高めているということである。

アメリカではグローバリゼーションは経済成長に欠かせないものとしている。しかし、ヨーロッパ人にとっては、グローバリゼーションはアメリカによる侵食と思っている節がある。日本人は英語を習うということは日本文化をだいなしにしているかもしれない。グローバル化するということは、アメリカ型にならなくてはならないということだと思っている。しかし、それは違う。その国にはその国で得意なものを持っているということを知識しなければならない。マクドナルドを食べたくなければ食べなければ良いし、英語を習うということはその国のアイデンティティを失うということではない。WTOに反対している人々は、貿易は環境に悪く、貧しい国の人々を利用することになるというが、経済的な余裕があれば、公害を減らすこともできるし、貿易なしでは貧しい国々も発展することはできない。貿易をしないということは、可能な発展を難しくしてしまっているのである。貿易なしでどのように豊かな暮らしをするのか。貿易は一個人にとっても、国にとってもその暮らしを豊かにするのである。

アメリカにとってグローバリゼーションを勧めるということはどういうことか。それは、自らを国際競争の環境に置くことでよりよく働き、貿易をすることで平和を促進し、貧しい国を助けながら、豊かな暮らしをめざすということなのである。